

工事成績評定運用表の取り扱いについて

(趣旨)

工事成績評定をより公平かつ客観的に行うよう努めるため、工事成績評定運用表の取り扱いを定める。

(適用)

- 1 工事成績評定運用表は請負金額が10,000,000円以上の工事に適用する。

(評定の方法)

- 1 工事成績評定書の考査項目細目ごとの細目評価点は、業種別（土木、建築、電気、機械、通信設備）に定めた工事成績評定運用表（別表第1）により求めたものを用いる。
- 2 考査項目細目に示す評価数を評価対象項目数で除し確認できた評価値により細目評価点3段階（80点A）（65点B）（50点C）のいずれかに○「マル」をつけて評定する。
また、考査項目ごとに工事成績評定運用表（別表第2）および（別表第3）に該当する加減点事項があった場合は、同表を作成し工事成績評定書に加減点加算する。
- 3 評価対象項目において当該工事に該当しない工種および評価対象項目外については削除し評定しないものとする。
- 4 工事成績評定細目評価点50点Cとした項目について説明書（別添提出書様式）を作成し提出する。
- 5 一括発注した複合工事の評定については、主たる工事について監督職員および検査職員が協議し、運用表により評定するものとする。

(運用表の提出)

運用表は、工事成績評定書と合わせて提出する。

様式第1号 (第4条関係)

課 長	課長補佐	上席主査	検 査 担 当 課	課 長

工 事 成 績 評 定 書										契約番号()	
工 事 名								工事担当課			
業 種		土木・建築・電気・機械・通信設備		現場代理人 氏名				監 督 職 員			
請 負 者				主任・監理技術者 氏名							
請 負 金 額		当初 金 円		最終 金 円				検 査 職 員			
工 期		自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日		契約書第42条 遅延日数 日 遅延損害金 円							
完 成 年 月 日		平成 年 月 日		遅延理由				評 定 結 果			
完 成 検 査 年 月 日		平成 年 月 日		再 検 査 日 平成 年 月 日				評定合計 評定判定			
								(1)～(4)の合計 小数点以下1位 4捨5入			
考 査 項 目		重 要 度 (%)	評 定 区 分						評 点		
細 目			監 督 職 員		検 査 職 員						
			重要度×細目 評価点() =項目評価点	項目評価点計	重要度×細目 評価点() =項目評価点	項目評価点計					
1 完成 の 状 況	①出来形	30	()=	a × 0.4 = A	()=	b × 0.8 = B	A × 0.5 + B × 0.5 =				
	②出来ばえ	20	()=		()=						
	③品 質	50	()=		()=						
	計		100	a	A	b	B	(1)			
2 施 工 体 制	①施工体制一般	40	()=	a × 0.3 = A			A × 0.5 =				
	②配置技術者	60	()=								
	計		100	a	A			(2)			
3 施 工 状 況	①施工管理	25	()=	a × 0.3 = A	()=	b × 0.8 = B	A × 0.5 + B × 0.5 =				
	②工程管理	25	()=								
	③安全管理	25	()=								
	④対外関係	25	()=								
	計		100	a	A	b	B	(3)			
※ 考查項目で不必要な場合には、各項目ごとに比例配分する。(100 / 省略後の重要度計) × 省略後の評価点 = (小数点以下3位 4捨5入)					加減点 (別表2・3) 十・一 点		(4)				
所 見	監督職員		検査職員		評 価 判 定 基 準						
					A 優 秀	100点 ～ 90点					
					B 良 好	89点 ～ 70点					
					C 普 通	69点 ～ 60点					
					D 稍 不 良	59点 ～ 51点					
						E 不 良	50点以下				

※当該工事が加減点事項に該当する場合のみ本表を作成すること。この場合、表中の加減点数を○「マル」で囲むこと。
土木、建築、電気、機械設備工事とも本表を使用すること。

【加減点合計】
(1) + (2) + (3) = 点

工事成績評定運用表（別表第3）

高度技術・創意工夫・難易度等に関する実施状況

工 事 名		
項 目	評 価 内 容	備 考
1. ☐ 高度技術 工事全体を通して 他の類似工事に比 べて、特異な技術 力	① ☐ 施工規模	・対象構造物の高さ、延長、施工（断）面積、施工深度等
	② ☐ 構造物固有	・複雑な形状の構造物 ・既設構造物の補強、特殊な撤去工事
	③ ☐ 技術固有	・特殊な工種および工法 ・新工法（機器類を含む）および新材料の適用
	④ ☐ 自然・地盤条件	・湧水、地下水の影響 ・軟弱地盤、支持地盤の状況 ・制約の厳しい工事用道路、作業スペース等 ・気象現象の影響
	⑤ ☐ 周辺環境等・社会条件	・埋設物等の地中内の作業障害物 ・供用中の道路・建築物の近接施工 ・騒音・振動・水質汚濁等環境対策 ・作業スペース制約・現道上の交通規制 ・廃棄物処理
	⑥ ☐ 現場対応	・施工状況（条件）の変化への対応
	⑦ ☐ その他	
2. ☐ 創意工夫 高度技術で評価す るほどでない軽微 な工夫	① ☐ 施工関係	・施工方法に関する技術提案 ・施工に伴う機械・器具・工具・装置類 ・二次製品、代替製品の利用 ・施工方法の工夫 ・施工環境の改善 ・仮設計画の工夫 ・施工管理・品質管理の工夫
	② ☐ 品質管理	・品質管理の煩雑さ、複雑さ ・高い品質管理制度の要求
	③ ☐ 安全衛生関係	・安全施設・仮設備の配慮 ・安全教育・講習会・パトロールの工夫 ・作業環境の改善
	④ ☐ 施工管理関係	・工期・工程の制約・変更への対応 ・工法変更に対する対応
	⑤ ☐ その他	
3. ☐ 社会性 地域社会や住民に 対する貢献	① ☐ 地域への貢献度等	・地域住民とのコミュニケーション ・ボランティアの実施
4. ☐ 工事難易度 ・構造物条件 ・技術特性 ・自然条件 ・社会条件 ・マネジメント 特性	① ☐ 施工規模	・対象構造物の高さ、延長、施工（断）面積、施工深度等の規模
	② ☐ 形 状	・対象構造物の形状の複雑さ（土被り、厚さ、カーブ・線形上）
	③ ☐ 工法等	・工法、使用機械、使用材料
	④ ☐ その他	・施工方法に関する技術提案
	⑤ ☐ 湧水・地下水	・湧水の発生、掘削作業等に対する地下水の影響等
	⑥ ☐ 軟弱地盤	・支持地盤の状況
	⑦ ☐ 作業用道路・ヤード	・急峻な地形条件下、工事用道路・作業スペース等の制約
	⑧ ☐ 気象	・雨、雪、風、等の影響
	⑨ ☐ 地中障害物	・地下埋設物等の地中内の作業障害物
	⑩ ☐ 騒音・振動	・周辺住民に対する騒音・振動の配慮
	⑪ ☐ 水質汚濁	・周辺水域環境に対する水質汚濁の配慮
	⑫ ☐ 現道作業	・現道上での交通規制を伴う作業
	⑬ ☐ 他工区調整	・隣接工区との工程調整
	⑭ ☐ 住民対応	・近隣住民との対応
	⑮ ☐ 関係機関対応	・関係行政・公益事業との調整
	⑯ ☐ 工程管理	・工期、工程、の制約・変更への対応（工程変更等に伴うもの）
	⑰ ☐ 品質管理	・品質管理の煩雑さ、複雑さ（高い品質管理制度の要求等）
	⑱ ☐ 安全管理	・高所作業、夜間作業、潜水作業等の危険作業
	⑲ ☐ その他	・災害時の応急復旧等

*該当する項目の☐マークを記入し、具体的内容の説明、写真等資料を整理して下さい。（別添提出書様式）

(別添提出書様式)

高度技術・創意工夫・難易度等に関する実施状況等説明書

工 事 名		請負業者名
(項目、評価内容) ○説 明		
工事成績評定細目評価点50点Cとした項目について具体的に内容を記入する。 監督職員 / 検査職員		
1 完成 の 状 況	①出 来 形 ②出 来 栄 え ③品 質	
2 施 工 体 制	①施 工 体 制 一 般 ②配置技術者	
3 施 工 状 況	①施 工 管 理 ②工 程 管 理 ③安 全 管 理 ④対 外 関 係	